

第1回 デジタル行財政改革 課題発掘対話

令和5年10月3日(火) 13:00～14:00

参加者

<p>有識者1 戸ヶ崎 勲 氏 戸ヶ崎 勲 氏 戸ヶ崎 勲 氏</p>	<p>有識者2 貞広 薫子 氏 貞広 薫子 氏 貞広 薫子 氏</p>	<p>有識者3 小宮山 利恵子 氏 小宮山 利恵子 氏 小宮山 利恵子 氏</p>
<p>モデレーター 田中美帆 氏 田中美帆 氏</p>	<p>サポート JAPAN+D</p>	<p>参加者 岸田 文雄 氏 河野 太郎 氏 浅沼 尚 氏</p>

デジタル行財政改革の目的

<p>人口減少 人手不足の影響</p> <p>人口減少・人手不足でも、公共サービスを効果的に提供し続けるための効率化や効果的な実施のあり方を考えます。</p>	<p>利用者起点</p> <p>供給者目線ではなく、サービス利用者の声を政策に反映し、利用者起点の公共サービスを実現していきます。</p>	<p>デジタルによる 社会変革</p> <p>デジタル技術の活用を通じた利用者の利便性向上や、サービス提供者の働き方改革を促進し、デジタルを前提とした社会像を検討します。</p>
--	--	--



人口減少・人手不足の影響

<p>戸ヶ崎 勲 さんから 語られた課題</p> <p>経験・勤・気合い(3K)のみに頼った文化があり、優れた実践が形式化されていない。 学校が自前主義から脱却し、産官学との連携の下で子ども達が出て行く社会を意識した最先端の学びを提供する必要があります。</p>	<p>貞広 薫子 さんから 語られた課題</p> <p>超多忙! NO残業 NO休日出勤 クラウドはダメ等過剰な制限。デジタル化が進まず。 教員が多忙で、専門性を発揮するべき本来のリソースを割けない。</p>	<p>小宮山 利恵子 さんから 語られた課題</p> <p>教員の業務範囲が多く、負担が大きい。 直接教えるだけではなく、子どもをサポートするメンター的な役割が拡大。</p>
--	---	--

利用者起点

<p>戸ヶ崎 勲 さんから 語られた課題</p> <p>産官学で授業改革 → 一人一人に合った教育 子どもの多様性に目を向け、誰一人取り残されない教育を実現する必要があります。 不登校や特別支援といったニーズに対応し、多様な学びの場の整備を進める必要。</p>	<p>貞広 薫子 さんから 語られた課題</p> <p>多様な子どもたち 多様な子どもに対してデジタル環境が必要。学校や家庭の通信環境改善が必要。 個別の学びのデータを見ながら指導を行うようなデータ、体制が不十分。</p>	<p>小宮山 利恵子 さんから 語られた課題</p> <p>教育・映像コンテンツ 動画コンテンツが学びには有効だが十分な通信環境がない。 子どもの学びの機会が都会と地方で格差あり(塾の有無、多様な体験など)。</p>
---	--	---



デジタルによる社会変革

<p>戸ヶ崎 勲 さんから 語られたゴール</p> <p>「Just do it!」 「百聞百見は一験にしかかず」の考えで、現場の微塵を固りICTやPBLを推進。 スモールステップでデジタル化に取り組み、負担増による、活動あって学びなしとならないよう進める。</p>	<p>貞広 薫子 さんから 語られたゴール</p> <p>オーダーメイドの学び データによる定量的・定性的評価を活用し、個々の生徒の学びを充実。 学校において、挑戦をし、小さな失敗をもとに成長していく組織風土の確立を。</p>	<p>小宮山 利恵子 さんから 語られたゴール</p> <p>VUCA時代に役立つ学び デジタル教材で自ら探究する人材を育成(知の深化) 結束持ち寄りを進め、家庭の通信環境を整え、学校と家庭でシームレスな学びを。</p>
--	--	---

発掘された課題

<p>デジタル環境を作る</p> <p>主たる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校での通信環境が良くない 校務システム使いこなせず、業務が多忙 <p>提案された解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル完結による業務効率の改善の原則の確認 	<p>デジタル環境の利活用</p> <p>主たる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員業務を校務が圧迫 過度なセキュリティなどのルール <p>提案された解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同調達等による校務システムの刷新 クラウド利用のため、BPR、標準化 セキュリティのルール改訂 	<p>効果を測る</p> <p>主たる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務システムやデジタル教材も利用し、働き方改革を進め、教師が子どもに向き合える時間を増やす
<p>校務体制</p>	<p>学習提供体制</p>	<p>提案された解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部の人材やリソースを活用した学びの体制をつくる 小さな失敗を許容し、トライをしながら成長していく組織風土を形成



デジタル行財政改革の目指す姿のイメージ

個別最適化された学びや
創造性を育む学び

教員負担の
軽減による働き方改革

こどもの学力向上へ